

東山動物園の「ダチョウ」

写真の「ダチョウ」は大みそかの中日新聞市民版に掲載されたものだ。東山動物園で馴染みの「ダチョウ」なので、ついレポートで紹介したくなった。見出しは「ダチョウひな誕生心待ち」とある。

記事のリードには。”社長と部長が社内恋愛中!?” といっても、東山動物園のダチョウの話。雄「しゃちょう」(推定 12 歳)と雌「ぶちょう」(4 歳)が仲むつまじい姿を見せている。毎年卵を産むが、ひなの誕生には至っていない。飼育担当らは、朗報を待ちながら恋の行く末を見守っている。

黒い羽の「しゃちょう」、灰色がトレードマークの「ぶちょう」は、互いの羽を毛づくろいしたり、地面の干し草を寄り添いながらついばんだり。飼育担当の渡辺友治さんは「3年前には考えられなかったこと」と振り返る。



ちなみに、二羽の名前はかつての飼育担当が「面白い名を」と付けたらしい。3年前は、「しゃちょう」と「ぶちょう」の仲は険悪だった。「しゃちょう」は「ぶちょう」がはげてしまうほど羽をひっぱる「パワハラ上司」ぶりで、飼育担当に対しても、威嚇のポーズを取ることもしばしばだった。

そこで渡辺さんらは、土だった飼育場所にさまざまな牧草を植えて緑を増やし、決められた時間に適量を与えていた餌やりを好きな時に好きな量を食べられるように、環境を変えてみた。ストレスをかけないようにもしてきた。そのかいあってか、ぶちょうが産む卵は3年前は7個だったが、去年は25個、今年は29戸と年々増えた。しかし、そこから先がうまくいかない。ダチョウは雄雌交互に卵を抱くが、二羽とも途中で卵を抱かなくなってしまい、ひながかえることはなかった。

飼育担当の渡辺さんは二羽が卵を必死に温め、ひなを育て、親として行動を来園者に見てもらおうと、あくまで「自然ふ化」を目指す。「ひなが生まれるのはまだ長く時間がかかるかもしれないが、試行錯誤して、しゃちょうとぶちょうを応援してやりたい」と目を細めた。

東山動植物園によると、ダチョウはアフリカの雨の少ない平原に広く生息。頭高2.5メートル、体重115キログラムと、現生の鳥で最も大きく飛べない鳥だが、走ることに長け最高速度は時速50キロメートルにもなる。動物園ではキリンの隣に混合展示され、ひょうきんで愛敬のある姿がなんともいえない(ダちょう)。

(2015年1月8日)